

## 子どもたちが 佐渡の自然を学ぶ

市内小学校4～6年生で結成する「佐渡Kids生きもの調査隊」は、現在45名の隊員で活動しています。

田んぼの生きもの調査のほか、無農薬・無化学肥料での米づくりなど、地元の農家の皆さんが先生となり、佐渡の未来を担う子どもたちが、小さな生きものとトキとのつながり、食と環境のつながりから生物多様性を学んでいます。

また、コウノトリの里、兵庫県豊岡市の子どもたちと生きもの調査を通じた交流を行っています。

## 佐渡Kids生きもの調査隊が中国を訪問

環境省の「日中トキ子ども交流事業」に、佐渡Kids生きもの調査隊13名が参加し、8月16日～23日に中国を訪問。中国での生きもの調査や、トキの観察を行い、中国の子どもたちと交流を深めました。



中国で見たトキは人間と仲良くしている感じがしました。日本のトキも人間とかかわりを持ってくれたらうれしい。生きもの調査で、珍しいカエルを見れたのが良かったです。



修理朋実さん  
(金井吉井小・6年)

日本のトキよりも神経質じゃなくて、観察したときにもビックリして逃げなかったのです。中国の自然環境は、緑がいっぱいあるところが佐渡と似ていると思いました。



本多章宏さん  
(行谷小・6年)



8月9日、東京大学で行われた「世界一田めになる学校」で、佐渡での取組みを発表しました。

佐渡Kids生きもの調査隊では、随時隊員を募集しています。詳しくは、市役所農林水産課生物多様性推進室（☎63-3761）まで！

## 地域在来の 生きものを守る

8月27・28日、新保地区（金井）で「外来魚撲滅大作戦」が行われました。

市では近年「ブラックバス」や「ブルーギル」といった外来種が急速に増え、メダカや、カエル、トンボの幼虫など、もともと佐渡の池や川にいた在



ブルーギル(左)と  
ブラックバス(右)

来の生きものを追い詰め、生態系への甚大な被害が問題となっています。

参加者は、あらかじめ排水された新保堤で次々と外来魚を捕まえ、その多さに、「こんなにいるとは・・・」とショックを受けていました。

外来種の問題は、本来の自然や生きものつながりに悪影響を与え続けていきます。もとの豊かな生態系を取り戻していくための取組みが必要です。

- 外来生物は・・・
- 1 入れない 悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない。
  - 2 捨てない 飼っている外来生物を野外に捨てない。
  - 3 拡げない 野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない。



## インタビュー



生物多様性保全ネットワーク新潟事務局 井上信夫さん

島内1300か所以上あるといわれているため池やダム湖のうち、私たちは30数か所で外来魚を確認していますが、まだまだ生息域は広がっています。佐渡は環境で注目され、トキの野生復帰にむけて取り組んでいます。水面下でのこういう実態はあまり知られていません。ため池は農村地帯の水源であり、生物多様性の基地ともいえる大事な場所なのに、そこが汚染源になる可能性もあります。放水する場合には、流出防止をお願いします。

外来魚を放してはいけません。法律でも禁止されています。佐渡の自然を思うなら、皆さんに協力していただき、これからもこの活動を続けていきたいです。